

令和6年度 兵庫県立西脇高等学校 学校評価

グラデュエーション・ポリシー (育成したい生徒像)	(1)ふるさとの自然や文化に愛着と誇りを持ち、将来地域社会に積極的に参画する人間を育成する。 (2)基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着により主体的に「考える」ことができる生徒を育成する。 (3)多様な人々とつながる力を育み、自ら「問い」を立て協働して探究することができる生徒を育成する。 (4)伸び伸びとした高校生活を送ることで、想像力と創造力の伸長を図り、夢の実現に向けて行動できる生徒を育成する。 (5)人間らしい柔軟な判断力を持ち、自由な発想で新しいことに挑戦する意欲のある生徒を育成する。
アドミッション・ポリシー (受入れたい生徒像)	(1)将来に夢を持ち、夢の実現に向けて努力し続ける生徒を募集する。 (2)周囲と良好な人間関係を築き、伸び伸びと充実した高校生活を送りたい生徒を募集する。 (3)課題を自ら発見し、多様な人々と協働して解決策を考えるなど、探究できる生徒を募集する。

領域等	評価の観点	評価項目	評価実践項目	評価平均(1~4)			学校関係者評価委員の意見
				生徒	保護者	職員	
学校運営	【A】開かれた学校づくり	1	本校は、ウェブアクセシビリティ(見やすさ、利用しやすさ)を目指した学校Webページの制作に取り組んでいるか。	2.9	3.0	3.0	・学校からの保護者への情報発信について、多くの保護者は広報の全体を把握していないことが多い。学校は、何をどのように、どの程度発信しているかの概略を知らせておくことも必要。 ・昨年度より各ポイントが概ねアップしており学校の努力がみてとれる。ただ項目3の保護者回答で「あまり思わない。思わない。」が3割を超えており、保護者の知りたい情報(ニーズ)とのすり合わせは常に必要。 ・オープンハイスクールの評価について、自己評価とともに、1年生について「西脇高校への志望を決定する際の影響・効果等」についての調査も併せて検証が求められよう。 ・ホームページにアップされている行事等に年記載のないものもあり、年の記載が欲しい。 ・保護者の評価が比較的低いのは見ていないからではないか。発信頻度としては適切。
		2	家庭や地域への情報発信	3.1	3.0	3.2	
		3	本校は、学校行事や部活動や日々の生徒の様子をこまめに伝えているか。	3.1	2.9	3.1	
		4	中学生及び保護者への広報活動			3.4	
	【B】危機管理	5	生徒は登下校等において交通ルールを守り、安全に配慮しているか。	3.7	3.0		・クラスターによる情報提供は、生徒、保護者、教職員とも高く評価している。他との運用の可能性があればいいのだが。 ・生徒の評価が高いのは、安全確保に対する情報に触れる機会が少ないからではないか。 ・西脇高校が休みの日の朝は周辺道路の混雑が減少するらしい。引き続き近隣への配慮をお願いしたい。 ・交通ルールは命に係わることであるため、これからもルールを守っていただきたいです。自転車での道の斜め横断は、本当に危険。せめて車の有無を確認することを忘れないでほしい。 緊急時の連絡等、生徒、保護者、職員とも同様の評価で、体制が整っているのだと思います。 ・交通ルールは見えていないので何とも言えないが、生徒の自己評価が少し高すぎないように思う。Classilは確実に情報が届くため、引き続き活用してほしい。対応できない家庭があるかもしれないが、ペーパーレスを推進していくために普通の文書も電子配布に移行していても良いのでは。
		6	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進			3.3	
		7	本校は、クラスターやラインネットを使って教員・保護者とも緊急時の連絡を伝えるときに、緊急時の体制を整えているか。	3.6	3.4	3.4	
	【C】生徒指導	8	生徒の内面理解	3.2	3.0	3.1	・生徒は、教職員による「日頃からの生徒の言動への注意、生徒や学級の把握」についての努力を高く評価している。教職員と生徒の日頃の円滑な関わりがうかがえる。 ・教職員の「生徒指導における理解の不一致」についての評価が低いことは、連携による指導の妨げとなり得る。今後の在り方の検証が求められよう。 ・生徒の自主性を重んじている回答内容でもよい。 ・項目10「挨拶や清掃の徹底」で、生徒は学校、保護者は家庭を意識して評価するので評価値に差が出たと思われる。 ・項目12「いじめの早期発見・早期対応」について、評価平均ではばやけるが、内容的に昨年と同様、生徒と保護者、職員との評価にずれが生じている。 ・13 職員の評価が比較的低くなっているが、職員ごとにばらばらの理解で指導を実施しているということか。14 情報共有が足りていないという評価だが、研修会が計画的にできていない要因はなにか。
		9	生徒の自主・自立の精神の育成	3.3	3.2	3.2	
		10	挨拶や清掃の徹底	3.6	3.0	3.3	
		11	いじめの未然防止、早期発見、早期対応	3.3	3.0	3.2	
		12	本校は、教育相談やアンケートの実施(学期に1回)により、いじめの早期発見に努め、必要に応じて学校全体で組織的に取り組んでいるか。	3.0	2.9	3.1	
		13	生徒指導における指導体制の推進			2.8	
		14	実践的指導力の向上に向けた研修の充実			2.7	
【D】進路指導	15	本校は、生徒の進路実現に向けて目的意識を持たせるため、文理選択や学部・学科研究のガイダンス、進路講演会を実施しているか。	3.4	3.1	3.2	・進路意識の高揚のためのガイダンスと講演会の実施について、生徒の評判は高い。引き続き効果的、効率的な運用を図っていただきたい。 ・「進路情報の研修会への参加や他学年との連携」についての教職員自身の評価が低い。その理由等の検証が必要ではないか。 ・進路指導について、生徒のポイントが高く、評価できる。 ・進路実績が向上することを期待している。 ・項目18「職員の進路指導研修」について、自己評価が少し低いのが気になる。 ・進路の実現について、生徒の評価が高いという結果が出ているので、先生が積極的にフォローしていることがよくわかる。 ・項目19「進路意識高揚と進路実現の取り組み」はミスマッチが起こっている？	
	16	進路実現に向けた情報収集と、生徒・保護者への提供	3.4	3.1	3.2		
	17	本校は、大学等の入試問題を分析し、傾向や対策を生徒に提示することで、進路意識を高めさせ、進路目標達成に繋げていますか。	3.3	3.1	3.1		
	18	本校職員は進路指導関係の研究会等に積極的に参加し、各学年との連携を密にして、進路情報の積極的な提供に努めているか。			2.8		
	19	勤労観・職業観の育成や進路意識の高揚と、進路実現に向けた具体的な取り組み	2.7	2.9	3.0		
【E】部活動	20	バランスのとれた活動	3.2	2.9	3.1	・生徒の肯定的回答について、保護者はむしろ否定的である。保護者の認識についても、注意を払いたい。 ・中学校では学校外の指導者による部活動に取り組み始めているが、本校はどのような状況なのか。	
	【F】学校事務	21	好感を持たれる接遇	3.3	3.3	3.2	・項目22「建物・設備の適切な管理と美化」について、予算的なものがあるので、修繕したくてもできない理由があるのではないかと。 ・職員の評価が極端に低いが、その理由が何かの検証が必要ではないか？ ・22では「あきらめ感」が低評価に繋がっているかも知れない。 ・真夏のクーラー問題は沢山の親子さんから意見を聞いている。 ・校舎もかなり古くなっており、危険箇所が出てくると思われる。まずは注意喚起、そして適切な修繕にむけて努力してもらいたい。 ・適切な修繕対応(予算措置も含めて)をお願いしたい。
22		建物・設備等の適切な管理と校内の美化	3.3	3.1	2.4		

領域等	評価の観点	評価項目	評価実践項目	評価平均(1~4)			学校関係者評価委員の意見	
				生徒	保護者	職員		
教育課程	【G】 教育課程	23	教育課程の編成と類型 選択指導	本校は、新学習指導要領や大学入試システムの変更等に対応したカリキュラムの編成ができています。	3.3	3.1	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程におけるカリキュラム編成や、講座編成についての教職員の評価が低い。その理由についての検証が必要であろう。 昨年度より生徒の評価がほぼアップしており、学校の努力が感じられる。探究活動について、より深い学びにつながるよう指導をお願いしたい。生徒本人が授業を理解している実感できているのは学力向上にむけた取組の成果。 探究活動の成果について、教職員の評価が低い。その理由の検証が必要であろう。 生徒の評価が高く、職員の評価が低い要因の分析が必要。
		24		本校は、生徒に対して科目の指導内容を明確化し、適正な講座編成に努めているか。	3.3	3.1	2.9	
		25		本校は、教科指導力向上のため、研究授業・研究協議及び外部へ向けた授業公開を実施する授業公開週間を設けているか。	3.2	3.2	3.0	
		26	学習指導力の向上 開かれた教育課程	本校職員は年2回実施の生徒による授業アンケート後に、その結果を受けて授業改善に努めているか。	/	/	3.0	
		27		生徒は、日々の授業を理解していると思っているか。	3.2	2.9	/	
		28		本校職員は生徒個々の実態を把握するため面談を行い、補充等を実施して学力向上に努めているか。	3.1	3.0	3.1	
		29	学力向上に向けた取組	本校職員は習熟度別授業や少人数授業等での指導状況や、小テスト・調査等の結果から、指導方法の点検・改善を行っているか。	3.4	3.3	3.0	
		30		本校は、探究活動をととして、教科横断的な取組を行うことで、生徒が自ら考え、問題を解決する力を養っているか。	3.1	3.0	2.9	
その他の課題	【H】 人権文化	31	人間尊重の精神を涵養し、他者を思いやり、共に生きる心の育成を図る。	本校は、生徒の実態を把握しながら各学年毎の目標を設定し、年間4~5回の人権HRを実施しているか。	3.2	3.0	3.1	・多様性社会を生きていく世代なので心の育成も大切。
		32	【I】 保健管理・ 健康教育	心身の健康課題に適切に対応し、生涯を通じて主体的に健康で安全な生活を送るための基礎を培う	本校は、定期健康診断の結果の活用及び定期的な「保健便り」を発行することにより、生徒自身の健康への関心を高め、自己管理を促しているか。	3.2	3.0	3.2
	33	本校は、健康相談の充実を図るために、キャンパスカウンセラー、当該学年・担任・保護者、必要に応じて専門機関との連携を密にし、支援を行っているか。		3.2	3.0	3.2		
	【J】 環境美化	34	環境美化意識の向上と適切な学習環境の確立	本校職員は日頃からゴミの量を減らしたり、分別の徹底を指導したりして、生徒の環境意識の醸成を図っているか。	3.3	2.9	3.0	
		35	【K】 防災・ 安全教育	防災意識の高揚と実践的な安全教育	本校は、実践的な防災教育を実施して、防災意識及び危機対応能力の向上を図っているか。	3.4	3.0	3.1
	36	本校は、夏季休業前に救命救急法(AED)等の講習を、職員・生徒を対象に実施する等、緊急対応の普及に努めているか。		/	/	3.1		
	【L】 図書館活動	37	図書室の利用促進	本校は、図書室の利用を促したり読書意欲を高めるために、定期的に通信を発行しているか。	2.7	2.5	3.1	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末での読書より紙の本での読書の方が記憶に残りやすいとの統計もある。市の図書館利用も含め多くの図書に触れてもらいたい。 「定期的な通信の発行」が評価の基準であることから、そのことが生徒の低評価につながったのであろうか？その基準の適切さもあわせて検証が必要であろう。 図書館内の工夫は何かされているか。生徒たちから、書籍の要望等はあるか。
		38	【M】 情報活用	本校職員は教員PC、NASをはじめ、各種ICT機器や個人情報等を適切に管理しているか。	/	/	3.0	<ul style="list-style-type: none"> BYODは生徒と先生の評価のギャップが気になる。(複数意見) 生徒の高い評価と教職員の低い評価のギャップが大きい。BYODについての理解の不足が原因か？ 活用やルールづくり等、どのような状況か。 何か実際にトラブルでもあったのか。改善はされているのか。
		39		校内ネットワークの適切な運用と管理	本校職員はICT機器をいについて研鑽を重ね、授業において積極的に活用しているか。	3.1	2.9	
	40	本校は、BYODを意識して、授業における活用やルール作り等の取組がなされているか。		3.6	3.0	2.6		
【N】 学校への 満足度	41	西脇高校への評価	本校に入学させて(して)よかったか。	3.5	3.5	/	<ul style="list-style-type: none"> 西脇高校における学校生活についての満足度は、生徒、保護者とも高い。その要因の検証も必要である。 卒業式の様子などからも高校生活の充実がうかがわれた。 満足している生徒、保護者が多く、うれしい評価。 素晴らしい！ 科学教育類型との特色というか、『これ！』という普通科との違いがまた曖昧な感じが残り、受験をする中学生に浸透していない様子。 	
	42		本校での学校生活に満足しているか。	3.5	3.4	/		
【O】 特色化・多様 化の推進	43	【普通科】	「総合的な探究の時間」を活用して、生徒が、身近な所にある課題や地域の課題に目を向け、多様な人物と協働し、自発的に探究することで、課題解決に向けて深い学びを得るよう指導しているか。	/	/	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 普通科、科学教育類型ともに教職員の肯定度が低い。学校全体としての検証が必要ではないか？ 探究授業で近隣の地域施設「みらいえ」においてアンケート等を行うことがある。生徒たちが準備に来るが、準備物等について先生からの助言がもう少し必要であると感じる。 生徒が見出した課題やテーマが、なぜそれを選んだのかという点に大変興味がある。仮説や目的に応じた実証方法についての指導は大変であろうが、ぜひ充実した結果が得られる時間となることを期待する。 	
	44	【科学教育類型】	「総合的な探究の時間」を活用して、自らの興味関心のある自然科学分野における課題を選択し、同じ志を持つ者と協働して探究したことを口頭や文章での発表を行うことで、深い学びが得られるよう指導しているか。	/	/	2.8		
	45	【生活情報科】	家庭に関する専門学科で学ぶことを活かして、地域の特産物を用いた商品づくりを通して、地域の多世代の方々とコミュニケーションを図ることで地域活性化に貢献できるよう指導しているか。	/	/	3.2		
【P】 業務改善	46	ワーク・ライフ・バランスの実現	本校職員は仕事の合理化・効率化を図り、残業時間の縮小に努めているか。	/	/	2.6	<ul style="list-style-type: none"> 一般的には徐々に改善が図られつつあると言われるが、教職員の肯定度が低い。その理由の検証が求められよう。 積極的に取り組んでほしい。 まず職員の満足度が上がらなければ仕事のパフォーマンスが上がらない。個人では改善が難しいので、全体として教員の負担が少しでも軽減するよう願う。 	